



# 新潟の水辺だより

Vol.49

● 編集発行・新潟の水辺を考える会 ● 発行日・1999年9月18日 Vol.49

## TOPICS

### 第2回「川の日」ワークショップ で通船川がグランプリを受賞

森本 利(通ちゃん)、星島 卓美(船ちゃん)

みんなに愛される「いい川」ってどんな川だろう?と身近な存在である川の自然環境や地域の文化を守ることに熱心な住民たちが、その取組みを発表しあって「いい川ナンバーワン」を決める「第2回『川の日』ワークショップ」が7月3、4日に東京・代々木で開催されました。

全国から約360人が参加し、71の川をA=地域住民から見た「いい川」とB=河川を管理する行政から見た「いい川づくり」の2部門にわけて審査が行われ、A部門でみごと通船川がグランプリを獲得しました。B部門は建設省筑後川工事事務所の田中秀子さんたちの佐賀県城原川(じょうばるがわ)が受賞しました。(内容は水辺だより48号を見て下さい。)

審査方法は一次審査では作品をグループに分け、1作品を3分で説明し、審査員の質問を受けながら2作品を二次審査に選びます。それと敗者復活で選ばれた作品を含めて二次審査が行われグランプリと入選作品を選びました。最後はかなりの接戦でどれが受賞してもおかしくないような状況でした。

通船川の発表ではチューリップの花絵が描かれたイカダを信濃川と通船川に流したことや「通船川・栗ノ木川下流再生市民会議」の活動など、川と人とのユニークな関わり方が評価され、東山の下小学校の児童たちが川の将来像を描いた10メートル以上ある絵巻物「通船川夢マップ」を広げると会場から驚きの声が上がりました。東山の下小学校の皆さんありがとう。

通ちゃんの森本がギターを持ち、船ちゃんの星島が本業のコックの格好で漫才風に発表したのでその雰囲気をご紹介します。

通: いやあ「川の日ワークショップ」は楽しかったねえ。

船: 緑あふれる代々木の森に集まった全国の川守人の熱気に圧倒され、会場で何を話したか? 頭の中は真っ白、アガツタねえ。

通: 通船川ってどんな川なの?

船: 新潟市の東部を流れる約8.5kmの都市河川なんですけど、阿賀野川と信濃川をつなぐ船通しの川として通船川と名付けられ、明治中期には外輪船の蒸気船が旅客用として運航されていたんだ。

でも、昭和39年の新潟地震後の河川改修で、水位が日本海より約2m低く、流れの少ない矢板直壁護岸の川になり、川幅も狭く、汚い・臭い・危険の3K河川で人が近づかなくなってしまったんだよ。



漫才風にプレゼンテーションをする

通ちゃん(写真中央)、船ちゃん(写真右)

(写真提供:「川の日」ワークショップ実行委員会)

通: そんな川が今、おもしろいんだよね。

船: そう、パートナーシップ型の「通船川・栗ノ木川下流再生市民会議」が出来て、年8回のワークショップが行われ、小学校の総合学習にも取り入れられているんだ。

通: これからの展開が楽しみだね。

船: そう、グランプリの受賞をバネに、新河川法の全国的な先進事例になるように活動していきます。

通・船: 来年「全国水環境交流会」を新潟市で行います。ぜひ、通船川を見に来て下さい。

## Eボートはいいボート!?

恒例の信濃川フェスティバル、いつもは他人事と思っていました。ところが今年「わくわくWS3通船川CH」が縁で、もう私は水辺の虜。

「Eボートでタイムレースをやるから市役所もチームを出して」とあちこちから言われ、うーん10名集まるかな?と思案しながらもメンバー募集のチラシを回し、ようやく1チームはできそうという頃、「夢海岸フェスティバル」でブラブラしていたら(ご近所なものですから)偶然職場の若人グループに会い、海が好きなら川も好きかも…、なんていう安易な発想で「Eボートレースに出る?!」と聞くと「出たい」というので「じゃあ、もう少し女性を集めて」とお願いした。この様子だと、男性、女性1チームづつできそう、もし、ぎりぎりメンバーが足りなければ、自分が出ればいいと考えていました。

そして当日、現物を目の前に、組み立て式と聞いていたけれど、結構大きいんだと実感。



新潟市職員の有志による「新潟市役所アマゾネスチーム」(撮影:高橋 剛さん)

果して今、組み立てろと言われてたら、組み立てられるかは自信がありませんが。

さて、ボートも組み立てられたことだし、さて我が「アマゾネス」はうまく行くのかと試乗をハラハラどきどき見ていたら、左岸を離れた方がいいが、ポイントを折り返すどころか、別な方向に向かっていく。待てどくらせど一向に戻ってくる気配もない。

突然「信濃川フェスティバルEボート遭難?!」の新聞見出しが頭の中をよぎる。

女性チームで話題をさらおうという私のもくろみが、別な意味で話題をさらっちゃったりしたら洒落にならないよなあ等と思いながら、もくろみなんて、もうどうでもいい。無事だったらそれでいい。「おーい!どうでもいいから早く戻って来て!!」と叫んでも、聞こえる訳ないよね。あんなに離れていたら…。

どうにかこうにか戻って来た時には、すでにみんな疲れていて、顔がこわばっている。

主催者からは「前に進むチームにしてください」と言われちゃうし、急遽、もう一つの「白馬の騎士」チームとメンバーをシャッフルし、男女混合にして、本番に望みました。結果は9位と11位で飛び賞の10位には惜しかったけれど、やれば結構本気になっちゃうし。日頃は汚いと思っている信濃川の水が顔にかかっても、全然汚いとも思わない。もう夢中になるくらいに楽しかったです。(おかげで翌日はまっ黒けでした)

エッ!ということとは?、老体は口だけ出して、後は若い人に任せようと思っていたのが、もう見ていられなくて、結局口は出すは、手は出すは、果ては足まで出してしまつて(舟を岸から離すとき使った)、しかも3回も漕いだ。我慢できなくてすみません。

当日の天気は、風が強かったり、雨に打たれたり波瀾含みだったけれど、いつかタイムを気にせずのんびりと舟を漕ぎだし、静かな水辺を楽しんでみたいと思っています。

以下、メンバーからのコメントです。

・ボートレースお疲れさまでした。最初はどうなることかと思っただけで、とても楽しかったです。疲れたけれど、一日楽しく過ごせて良かったです。(終わった後の飲み会も楽しかった。)お誘い頂き、ありがとうございます。また遊んで下さい。(ウッチー)

・新しい友達もできて、誘ってもらって良かったです。また何かあったら声をかけて下さいね。

今度一緒にショットバーへ行きましょ。(香)

・ボート面白かったです。すごく疲れたけれど…。

また、楽しい企画があったら誘って下さい。(朋)

高橋 照子

## 古代縄文丸木船復元と 佐渡海峡横断成功

平成11年7月19日午前3時。新潟県岩室村間瀬港の空はどんよりとした雨雲が覆っていて今にも雨が降りそうな様子。この天候の中を我がキャリアテクニカ専門学校「ネイチャーフィールド科」の生徒7名と副校長で水辺の会会員五十嵐と高橋裕雄・素晴親子、ほか関係者総勢13名は縄文時代に交易に使われていたと思われる丸木船を再現したもので佐渡の赤泊港までの約40kmの佐渡海峡横断にチャレンジしようとしていた。再現した丸木船は米松製、全長8メートル、幅75センチ重さ約400キロ、定員は5人のもので生徒と先生が2ヶ月余りの歳月と努力をかけて作った力作である。



チェーンソーで船内を削る

午前4時30分。予定より遅れて出航。雨交じりの風の中一人1乗船で2000回漕ぐことを基本として1時間交代で航海に臨んだ。想定した時速は約5キロ。生徒は船酔いに苦しんだものもいたが意気軒昂に漕ぎ続けていった。しかし、約4時間が経過して行程の半分約20kmほどきたところでアウトリガー（船のバランスを支えるもの）が破損してしまいこのままでは航行不可能になるおそれが出てきた。そのため高橋親子がゴムボートにアウトリガーの枝のしたにいれ応急処置を施した。一時は航海の成功を危ぶまれたが無事航行を再開し

た。ここで40分程度時間をロスしたが、出発より約9時間の午後1時30分無事赤泊港に入港した。



細かいところはノミなどを使い仕上げる

生徒たちは実に誇らしげで達成感に満ちたよい表情をしていた。現代は何でもお金で買える時代である。しかし自分の手でものを作り、設計し、計画して実行していくことが一連の流れの中で体験できたことは有意義なことであったと思う。



日本海の高原を漕ぎ進む丸木舟

それにもまして当校の生徒は「水辺の会」の主催する菅名岳登山で桂の原生林や栃の巨木をみたり、奥三面での縄文遺跡を見学させてもらったりして縄文人の生活を少しでもリアルに感じてもらったのではないだろうか。この横断の成功は水辺の会の諸氏や多くの方の協力のたまものである。ここにそのご協力に心より感謝の意を表したい。

世話人 五十嵐 実

### 8・4水害から1年 再起をかけた米パスタ

昭和3年頃からこの地で商売を始めて70年、昭和39年の新潟地震、昭和42年に自宅兼店舗の火災、平成10年8月4日こんどは水害です。何年も前からちょっと強い雨が降るたびに工場前の道路が冠水しており、ことあるたび関係各所をお願いを繰り返しておりましたが改良まで行かず今回の水害です。

私の仕事は毎朝4時から始まりです。水害の当日はあまりに強い雨のため早く目がさめ、工場の隣にある部屋に一歩踏み出したとたんピシッと水の音、もうここまで水が!!。

機械が、製品が、包装資材が、みんな水浸し。どんどん水位が上がり、朝8時～9時に深いところでは50～60cmに達しました。あっという間のことで機械や製品の移動もできず濡れるままです。何年もかかってやっと買い求めたものばかりです。

8月4日は給食の栄養士さん250名に開発途中の米パスタの試食会を予定していた特別な日でした。前日まで準備を重ね、ようやくと思っていた矢先の出来事でした。試食会も中止同様、私も会場に出かけるどころではなく、後片付けに二晩眠らず奮闘しておりました。塵芥収集車で4台分の原材料を捨てることとなり、泣くに泣けない状況でした。

そんな中で麺組合の新商品開発委員として平成9年から取り組んできた米パスタを何とか製品にすることが4,000万円にも及ぶ損失をカバーするとともに米の消費拡大と組合の活性化につながると信じ研究を重ね、ようやく平成11年7月ミートソース付きの「お米パスタ」の完成となりました。今後は組合員の皆さんとともに協力し、目的達成を目指したいと思っています。



坂井製粉製麺有限公司  
専務取締役 坂井 秀博

### 第3回新潟県環境NGO大会 開催される

9月11日(土)に「第3回新潟県環境NGO大会」が開催されました。

これは新潟県内で環境に関わる活動をしている市民団体が集い、情報交換をしながら、ネットワークをつくり、より多くの人たちに、環境に関わる活動に参加してもらいたいと願い、97年から開催しており、今年で3回目になります。

プログラムはエコ・フェスティバルとエコ・アクションに分れており、新潟県環境賞の表彰式もおこなわれました。学校等の部では「新潟市山の下中学校」など6団体、一般の部では「五泉トゲソを守る会」など13団体が表彰されました。

フェスティバルでは児童文学者の国松俊英さんが「トキ色のつばさよみがえれ」と題して、長年に渡る佐渡のトキとの付き合いや環境問題など、やさしい言葉で分かりやすく話されとても感動的でした。また、受賞団体や県内環境NGOの活動発表では、時にパフォーマンスを交え、制限された時間の中で楽しみながら発表しているのが印象的でした。

エコ・アクションは各参加団体の運営で自然観察や古町でのエコクイズなど、県内11ヶ所で行われました。水辺の会関連では通船川クリーンアップと佐湯ハス採り大会を企画しました。(通船川は4日に終了、佐湯は25日に開催しますので御参加下さい)

この大会は新潟県の音頭とりで始まりましたが今回は予算も少なく、私が入行委員長になったこともあり、お金がかからない方法として、会場設営や宣伝活動など実行委員が率先して行い、企業の協賛金集めに走り、知恵と汗を出しながら開催することが出来ました。

自分達の活動にプラスしてネットワーク型の活動はなかなか大変です。その中で大会が開催できたことは、県内のNGOが少しづつ力をつけてきたものと思われれます。

NPO法(特定非営利活動促進法)が成立し、社会におけるNGOの役割はこれから益々重要になってきます。この輪をもっと広げてゆきたいと考えています。

来年も開催する予定です、ぜひ御参加下さい。  
(注 NPO:非営利組織、NGO:非政府組織)

世話人 森本 利

## 2000年10月新潟で 全国水環境交流会開催決定

99年6月19日、20日、東京代々木オリンピックセンターで第7回目の全国水環境交流会(全水環と略称)東京大会が開かれ全国から約200人が集まった。

大会のテーマは21世紀水環境の扉「川から地域へ」だった。5つの分科会ではそれぞれ河川管理におけるのパートナーシップ、川並み保全と地域の合意形成、水系の生物多様性保全、NPOと市民事業、21世紀の連携交流など全国レベルで議論すべきテーマで議論を交した。私は大熊会長のパネリスト参加する第2分科会に参加した。

ここでは、第十堰をめぐる徳島県吉野川の河口堰の是非を住民投票で問うか否かで市議会が大揺れの時期に、その当事者である住民側の姫野さんと行政側の大平さんがそれぞれ川づくりのあり方の考え方を交してきた方々を問の席に挟んだ形で熱い議論を交すこととなった。方や吉野川シンポジウム実行委員会で精力的に運動を進めてきた姫野氏、方や東京の荒川の川づくりを官民パートナーシップで実践してきた自負のある建設省徳島工事事務所の大平所長。両者が現地でない東京でできる議論には短時間でもあり限界があったと思うけど、論点が明確だったせいとか少し振りに緊張したいい議論だったと思う。

ここで1つ確認しておきたいことは、全国の会議でいつも課題を残してしまうことだ。論点が見出せずに情報交換のレベルを越えられないためだ。予稿や事前検討、議論のコーディネイト、大会宣言、報告集と論点は整理されているはずだが難しい。対立型の議論から提案型の議論への展開が不可欠とすれば、アメリカの全国大会NPOのように全国大会の継続性を専門に担うスタッフの常駐する事務局組織がどの全国大会にも必要な時期に来ているのではないだろうか?これは毎年新潟で議論している場面でも感じさせられる限界である。

全水環では毎回、建設、国土、環境、文部、農水等各省庁から課長クラスの担当者が一同に会し最新の施策を披露しながら大会のテーマに対応した展開の可能性を提言する。是非、新潟大会にも参加され、都市河川通船川や佐潟、阿賀野川、信濃川、平野部の農地、雪深いブナの森、海岸線など地方の具体的な水環境の場面での最新の施策の展開の可能性を市民とやり取りできればと期待している。是非、論点の見えるドラマチックな大会にしたい。

世話人 相楽 治

## 「川に学ぶ」シンポジウムin北上川

8月21・22日の両日、岩手県金ヶ崎町の県立県南青少年の家などを会場として、シンポジウムが開かれた。これは昨年(99年)の静岡市に次いで2回目である。

建設省が提唱する「水辺の楽校プロジェクト」事業の企画や水辺の整備計画に係っていることから、昨年につづいて山賀昌子さんと共に参加した。

シンポジウムには、川に学ぶ研究会の静岡大学杉山恵一教授をはじめ、建設省、環境庁、文部省などの幹部のほか、全国各地で川とのふれあいの活動に係わっている民間や行政の人たち約300名が参加した。

河川審議会の「川に学ぶ小委員会」の4つのテーマに対応した分科会と、作家 三好 京三さんなどが参加したパネルディスカッションで構成されたシンポだったが、冒頭の大野 重男(財)ハーモニーセンター理事長の基調講演は、文部省の高官の前に「文部省は14年も遅れている。生きる力を育む教育を実践するために、学校や先生を頼らず、地域の責任で取り組んでいこう」と訴え、強烈な先制パンチを浴びせた。

分科会では、4つのテーマのうち、一番議論が詰められていない第3分科会に参加し、「安全に川に学ぶために」を中心とした討論に加わった。

私たちが、川あそびや自然観察で、子供たちと関わる形態はボランティアである。

もし、このような活動の中で事故が発生したら、法的な責任を負うことになり、危険の回避や、リスク・マネジメントの仕組みをつくらうということが、議論の中心だった。

過失責任をのがれる手段等が、議論の主流となると、ボランティア精神が萎縮することに繋がりがねないのではと感じ、サバイバルスタディ等といった、より本質的な議論を深める必要があると思いつつながら帰路についた。

世話人 石月 升

## 「掛川哲学塾」に参加して

7/31～8/2に静岡県掛川市で行われた「掛川哲学塾」に参加してきました。「掛川哲学塾」は、今年3回目の開催を迎えるセミナーで、主催は、内山 節氏(哲学者)、大熊 孝氏(新潟大学教授)、鬼頭 秀一氏(東京農工大教授)による「三人委員会」と榛村 純一 掛川市長です。

哲学というと、何だかお堅く解りにくいセミナーを想像されるかもしれませんが、「三人委員会」やそれを中心とするネットワークの人たちは、それぞれが専門とする研究や活動(あるいは生き方)をしながら、共通する考え方や共有できる価値観を哲学という言葉でダシに集まっているような柔軟性のある会です。

問題提起や、討論のテーマも、自然、環境、高齢化、ネットワーク、産業、企業経営と非常に多様です。

今回のセミナーでは、1日目に行われた8つの「鼎談+1」で話されたことが、その後の討論のテーマになりました。

8つのテーマは、

- 1.現代社会の組み替えと哲学の役割、
- 2.私と他者、
- 3.職業と仕事、
- 4.ローカルな経済とグローバルな経済、
- 5.生産と自然、
- 6.漂流者と定着者、
- 7.自然と和解する思想、
- 8.新しい時代の新しい哲学です。



三人のセッションの様子  
(撮影：(社)農山漁文化協会 阿部道彦さん)

これだけみるとやはり難しそうですが、自分のフィールドでは専門家であっても、異分野のことは教えていただく、聞かせていただくという感じでの話し合いです。だから、決して難解ではありませんでした。

このセミナーは本にまとめられ、1回目が「ローカルな思想をつくる」、2回目が「市場経済を組み替える」(いずれも農文協刊)として出版されています。ぜひお読みください。

株式会社サザンウインド 小原 いおり

第2回新潟の水辺を考える会海外ツアー  
タイ王国バンコク5日間のお知らせ

昨年は中国の桂林の舟下りをメインにしたツアーを行いました。今年はタイのバンコクを企画しました。

バンコクは、東西文化が調和したエキゾチックな都市で、市内には運河が巡らされ、水上マーケットをはじめ、人々の生き生きとした水辺の暮らしに触れることができます。



運河で遊ぶバンコクの人々

■期間：1999年12月23日(木)～27日(月)4泊5日  
■代金：一人98,000円(一人部屋使用16,000円追加)  
(パスポート取得費用、渡航手続費用(4,200円)、空港税(関空2,650円、バンコク500バーツ)、海外旅行保険(任意)等は別途費用となります。)

■募集人員：20名様(最少催行人員15名)

■添乗員：新潟交通社員が同行します。

■申込み締切り：11月15日(月)

■主な日程

12/23(木)

新潟空港(16:30発)関西空港乗り換えでバンコクへ

12/24(金)

運河巡り、バンコク市内観光古典舞踊ディナー

12/25(土)

チャオプラヤ川クルーズと古都アユタヤとバンパイン観光

12/26(日)

ダムン・サドアク水上マーケットなどを観光

12/27(月)

バンコク発関西空港乗り換えで新潟空港へ(20:00着)

問い合わせ先：編集鳥 高橋 正良

電話 025-234-7325

Fax 025-234-7327

e-mail:masayosi@on.rim.or.jp

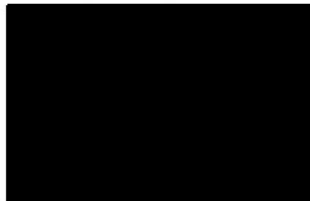


# 会員紹介

# MEMBER'S



大久保 京子



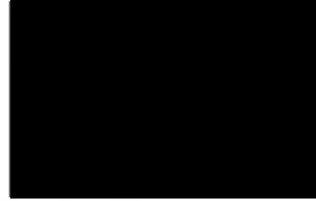
地球は水の惑星とか、自然を豊かに残す水辺に立つと、人は皆素直に心優くなるのではないのでしょうか。

水郷水都会議の後、信濃川ウォッチングに参加して感激し、入会を決意。

10年位前から地元の地下水を守る住民運動(大野の水を考える会)にかかわる。



FRONT 編集部



(財)リバーフロント整備センター発行の水の文化情報誌『FRONT』を編集・制作しています。

通船川再生計画やウォーターシャトルの船出など、新潟の水辺の活発な動きは、目が離せません。

実際の活動には、なかなか参加できませんが、これからもどうぞよろしく。ちなみに、編集スタッフ5名中、3名は魚座生まれ。水と縁(えにし)は深い!?



雪松 眞美



水辺と聞くと遊び、子供の頃を思い出します。「信濃川」は親しみのある川ですが、最近「三面川」、「姫川」を見てきました。公民館で川と人との関わり、水運、治水の歴史など興味深く受講しました。

「水上の音楽」、「美しく青きドナウ」、「モルダウ」など聴くのも好きです。



鍵富 徹



長女が描いた似顔絵です。

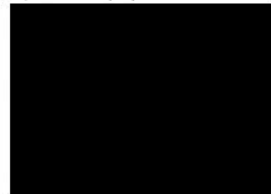
以前から様々な形で、水辺を考える会の皆さんとはお付き合いさせていただいていましたが、職場もアナウンスから、記者に変わったこともあり、物事をじっくり考えて見たいと思ひ、参加させていただきました。

現在は、報道の仕事に追われて、迷える小羊状態ですが、ご迷惑をかけないようにいたします。宜しくお願いします。

好きな水辺は、しいていえば冬の海かな。



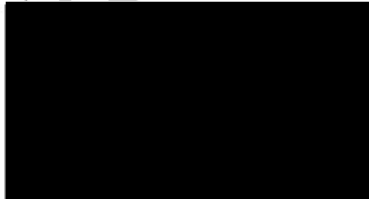
堀江 興



私は、清澄な小川やせせらぎ、そのほとりに咲く草花を見ると、自分の歩んできた人生と重ね合わせ、心休まる思いがします。しかし、将来は、部屋の窓を大きく開けると、まぶしい太陽の下で、美しい川と緑が映え、新鮮な空気を胸一杯に吸えるマンションに住んでみたいと思っています。



中越 豊



近所の保津川にて

新潟出張の折に事務局の森本さんから貴会の取組みについてお伺いする機会を得、参加させていただくこととなりました。京都でも、遅ればせながら由良川ネットワークが産声を上げ、源流から河口・海まで、地域の市町にて順次、寺子屋方式のリレー・シンポジウムやデイ・ツアーを開催中であり、楽しい輪が広がっております。近々、NHKの金曜フォーラムで放映予定ですので、御助言等賜われれば幸いです。どうぞ、今後ともよろしく申し上げます。

# EVENT INFORMATION

## 水辺の会関連99年活動予定

- 99.9.25(土)佐潟ハス採り大会  
13:00~15:30新潟市赤塚/佐潟水鳥湿地センター前集合  
参加費:無料/ハス採りを行った後、天ぷらの試食会開催/着替え持参のこと/主催:新潟の水辺を考える会  
TEL 025-263-2733 相楽、森本
- 99.10.1~2(土)信濃川水無サミット十日町
- 99.10.9~11(月)開港5都市景観まちづくり会議 神戸大会  
~開港都市の未来(あした)を探る  
事務局:神戸市アーバンデザイン室/TEL 078-3252-5484
- 99.10.15(金)~17(日)  
第15回水郷水都全国会議IN沖縄・宮古島大会  
~水はめぐる一天、地、海、生命~  
事務局:風水車 098-994-8183
- 99.10.30(土)水辺シンポジウム99  
13:00~16:30/新潟市万代市民会館  
通船川河口ワークショップ・WWW3報告、第3回にいがたの水辺賞贈呈/主催:通船川ネットワーク/共催:通船川栗ノ木川下流再生市民会議
- 99.11.3(水)  
映画「縄文うろしの世界-青森県三内丸山遺跡98-」+シンポジウム  
長岡リリックホール/問合せ 市民映画館をつくる会  
TEL 0258-32-4500

- 99.11.20(土)  
映画「縄文うろしの世界-青森県三内丸山遺跡98-」+奥三面遺跡発掘調査報告会  
朝日村総合文化会館(岩船郡朝日村)/問合せ:奥三面遺跡調査室  
TEL 0254-72-1577
- 99.11.23(火)縄文映画三部作  
「木と土の王国-青森県三内丸山遺跡94-」  
「1万年王国-青森県の縄文文化-」  
「縄文うろしの世界-青森県三内丸山遺跡98-」  
市民映画館シネ・ウインド/問合せ 縄文映画をみる会  
TEL 025-243-5530
- 99.12.18(土)新潟の水辺を考える会 総会&忘年会  
■99.12.23(木)~27(月)  
第2回新潟の水辺を考える会 タイ王国バンコク5日間  
タイ チャオプラヤ川下りツアー  
代金:一人98,000円(一人部屋使用16,000円追加)/募集人員:20名様(最少催行人員15名)/添乗員:あり/申込締切:11月15日(月)  
・主な日程  
12/23.新潟空港(16:30発)関西空港乗り換えでバンコクへ  
12/24.運河巡り、バンコク市内観光古典舞踊ディナー  
12/25.チャオプラヤ川クルーズと古都アユタヤとバンパイン観光  
12/26.ダムノン・サドアク水上マーケットなどを観光  
12/27.バンコク発関西空港乗り換えで新潟空港へ(20:00着)  
問い合わせ先:編集鳥 高橋 正良  
電話025-234-7325 Fax 025-234-7327  
e-mail:masayosi@on.rim.or.jp

## 『新潟の水辺を考える会』ご案内

この会は、遊び心半分・真面目心半分で活動しています。  
ウォッチングには、家族ぐるみで子供達も一緒に参加したりしています。  
自分の足で水辺を歩くなりして、自分でも感じたことから、自分の水辺を発見していく、あるいは考えていくことを大切にしています。  
今までは違った視点から、あらためて自分の身の回りに目を向けて見ると、同じものを見ているのに今までは違うものに見えてきます。新しい発見があります。自分の世界もまた少し広がってきます。  
この会も色々な分野の人達が集まって、それぞれの世界がもっと広がっていきような出会いの場を提供できる会にしたいと考えています。あなたの参加お待ちしております。

■設立年:1987年10月1日 ■目的:水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、スポーツ、レクリエーション並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、地域の生活向上に寄与することを目的とする。 ■代表者:会長 大熊 孝(新潟大学工学部教授) ■会員数:個人233名・法人16団体(99年9月現在) ■活動:水辺シンポジウムの開催/水辺ウォッチング/会報「新潟の水辺だより」の発行/「水辺環境整備に関する学習会/長野県富山県の水辺グループとの交流会/通船川、佐潟の調査・研究 ■年会費:個人会員2,000円 賛助会員(法人など)10,000円

## 書籍紹介 市場経済を組み替える

内山 節+大熊 孝+鬼頭秀一+榛村純一 編者  
●社団法人農山漁村文化協会 ●定価1,714円(税別)

「ローカルな営みと世界市場を前提とする市場経済との間に、いかなる関係をつくりだしたらよいか。市場経済社会をどのように組み替えていったらよいか」(内山節・序より)  
地方自治、製造業、農林業、高齢者福祉、環境にかかわる八人の現場での模索を軸に、市場経済の論理から自律した確かな世界を見はるかす。  
三人委員会(内山節・大熊孝・鬼頭秀一)+榛村純一の共編によるシリーズ第二弾!

## 編集後記

市民運動の新しい流れが、掛川で行われた哲学塾で、整理され裏打ちされたような気がします。今、私たちを取り巻く言いようのない孤独感や疎外感が、市民運動の中で体を動かし汗を流すことで、うち消される実感がわいてきます。私たちが暮らす豊かな生活を支える社会資本を作ってきた土木技術などの発展が、この新しいコミュニティを創造を可能にしたのでしょうか。水辺で遊び学ぶことで心豊かに暮らす可能性をさらにいろいろと提案できそうです。

編集鳥 高橋 正良(masayosi@on.rim.or.jp)

## きりとり線 入会申込書

フリガナ氏名		男・女
特技や水辺への想い		歳
住所	〒 ( ) -	メールアドレス
職業		
勤務先	〒 ( ) -	

注)紙面の都合上、縮小しています。250%程度拡大コピーをしてご使用下さい。

- 事務局 株式会社グリーンシグマ内(e-mail:QZE06777@nifty.ne.jp)  
〒950-2111 新潟市大学南1丁目7821-5  
Phone 025-263-2733 Fax 025-263-1134
- 編集局 株式会社サザンウインド内(e-mail:masayosi@on.rim.or.jp)  
〒951-8134 新潟市関屋1422-10  
Phone 025-234-1153 Fax 025-234-1173
- URL <http://www.on.rim.or.jp/~sugiyama/mizube.html>